

企画展

色絵磁器の粹すい

— 鍋島と伊万里の世界 —



青磁染付松文五寸皿



色絵岩笹文五寸皿



色絵金欄手宝尽文独楽形鉢

平成19年6月7日(木) — 8月5日(日)

● 開館時間 9時—17時(入館受付は16時30分まで) 月曜日休館(月曜祝日の場合は翌日)

● 入館料 一般300円 高校生200円 小・中学生無料 友の会会員無料

● 団体(20名様以上)、シルバーカード・障害者手帳提示の方等 2割引

● ギャラリートーク 毎週土曜日 14時から

【特別講演会】

講師 ● 鈴田由紀夫氏(佐賀県立九州陶磁文化館) ● 演題「肥前の色絵磁器—鍋島・古伊万里・柿右衛門—」

日時 ● 平成19年6月23日(土) 13時30分—15時00分 場所 ● 岡山県立図書館 2階 多目的ホール

定員 ● 100名 友の会会員1、000円 一般1、200円

林原美術館

〒700-0823 岡山市丸の内2-7-15

TEL(086)223-1733

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

色 絵 磁 器 の 粹

— 鍋島と伊万里の世界 —

江戸時代を通じて、佐賀県の有田を中心に展開した染付、青磁、赤絵などの磁業が日本陶磁史上きわめて大きな存在であったことは言うまでもありません。いわゆる鍋島焼、伊万里焼です。これらはいずれも、初期においては互いに影響しあいつつ発展しましたが、寛文から元禄にかけては、それぞれに特色のある作風を示すようになりました。なかでも鍋島焼は将軍家や諸大名への献上品として、佐賀鍋島藩の藩窯において焼造されました。そのため技術の粋を尽くした他に類例のない精緻なものとなりました。その美しさと技術は色絵磁器の最高峰とも評されます。



色絵蜀江文五寸皿



色絵椿柴垣文七寸皿

また同じ有田において、民窯では赤絵をふんだんに使った伊万里焼や柿右衛門様式などの色絵磁器が発展しました。幕府や大名への贈答品として作成された鍋島焼とは異なり、これら伊万里焼や柿右衛門焼はヨーロッパなどの海外へ大いに輸出されていきました。江戸時代はまさに色絵磁器の百花繚乱期を迎えます。



色絵美人文六角壺

林原美術館は、盛期の鍋島や伊万里焼を多く所蔵しております。本展ではこれらの中から優れた作品をご紹介します。色絵磁器のそれぞれに異なる魅力を御覧いただければと思います。



色絵金襴手五艘船図独染形鉢



染付月文皿

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市丸の内2-7-15 TEL (086)223-1733 FAX (086)226-3089
<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

*車椅子対応の設備あります。

交通/JR岡山駅から徒歩25分/路面電車[東山行]県庁下車徒歩7分
 岡電バス[岡電高屋行]県庁前下車徒歩3分
 宇野バス[瀬戸駅前行・四御神行]県庁前下車徒歩3分



次回予告 企画展 「うるしの華」
 8月18日(土)~10月14日(日)

本展は当館所蔵の漆工芸品の中から、中国の彫漆、螺鈿、日本の蒔絵をご紹介します。彫漆では花鳥堆朱食籠、螺鈿では丸文散螺鈿食籠、蒔絵では雛菊蒔絵提重を展示予定です。